



芝生用除草剤 (土壌兼茎葉処理型)

荷袋：150g×10 袋 / ケース

ブロードケア

顆粒水和剤

ブロードケアは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



広葉雑草、ヒメクグ・ハマスゲに 優れた除草効果!!



ブロードケア顆粒水和剤の特長

1. 日本芝に対する高い安全性
2. ヒメクグ、ハマスゲにも効果があります。
3. 幅広い殺草スペクトラム
4. グリーン周りでも安心して使えます。

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	フルセトスルフロンを 含む農薬の 総使用回数
			薬量	希釈水量			
日本芝 (こうらいしば)	ヒメクグ、 ハマスゲ	雑草発生初期	30~60g / 10a	100~200ℓ / 10a	3回以内	散布	3回以内
日本芝	一年生及び、 多年生広葉雑草						
西洋芝 (ベントグラス)		春夏期 雑草発生初期					

ブロードケア 製品概要



- 【種類名】**：フルセトスルフロン水和剤
【有効成分】：フルセトスルフロン…50.0%
【化学名】 1-[3-[(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イルカルバモイル)スルファモイル]-2-ピリジル]-2-フルオロプロピル=メトキシアセタート
【物理化学的性状】：製剤の性状：類白色水和性細粒
【人畜毒性】：急性毒性 経口/ラット ♀ LD₅₀：>5000mg/kg
 普通物相当 注釈：「毒劇物に該当しないものを指している通称」
【魚毒性】：コイ LC₅₀：>199mg/L (96hr)、オオミジンコ EC₅₀：>199mg/L(48hr)



顆粒水和剤 殺草スペクトラム

供試植物		0.03g/m ²	0.06g/m ²	* 土壌処理剤との混用 0.03g/m ²	
カヤツリグサ科	ヒメクダ	◎	●	—	
	ハマスゲ	◎	●	—	
スミレ科	タチツボスミレ	○	●	—	
	ヒナスミレ	●	●	—	
キク科	マメカミツレ	●	●	●	
	タビラコ	●	●	●	
	オニタビラコ	●	●	●	
	ノゲシ	●	●	●	
	オオアレチノギク	●	●	●	
	トキンソウ	●	●	●	
	セイヨウタンポポ	◎	●	●	
	ウラジロチチコグサ	△	○	●	
	アカザ科	シロザ	●	●	●
	アブラナ科	タネツケバナ	●	●	●
ナズナ		●	●	●	
カタバミ科	カタバミ	●	●	●	
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	○	◎	●	
シソ科	ホトケノザ	●	●	●	
タデ科	ヤナギタデ	●	●	●	
	イヌタデ	●	●	●	
トウダイグサ科	コニシキソウ	△	○	●	
ナデシコ科	ツメクサ	●	●	●	
	ハコベ	●	●	●	
	オランダミミナグサ	●	●	●	
	ノミノフスマ	●	●	●	
	ツメクサ	●	●	●	
セリ科	チドメグサ	○	◎	●	
マメ科	カラスノエンドウ	●	●	●	
	シロツメクサ	◎	●	●	

*ブロードケア顆粒水和剤：0.03g/m²+グリーンケア G 顆粒水和剤：0.3g/m²
 ●(90%以上の除草効果)、◎(80~89%の除草効果)○(60~79%の除草効果)、△(40~59%の除草効果)、×(39%以下の除草効果)
 処理時期は、雑草発生前~雑草発生初期。=データ収集期間は2002年~2011年 =
 本表は委託試験成績と SDS 社内試験結果をとりまとめたものです。

⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤は雑草の発生初期に有効なので、時期を失ないように均一に散布する。
- イネ科雑草には効果が劣るので、イネ科雑草が多い場合はこれに有効な土壌処理剤との組み合わせで使用する。
- 周辺の植物にかかると薬害を生じるので、散布の際は芝生の中や付近にある草木や花木、畑作物などに薬液がかからないようその付近での散布はさける。
- 散布に用いた器具類はよく水洗いして、他の用途に使用する時は、影響のないように注意する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意する。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
 使用後は洗眼する(刺激性)。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 空袋は圃場などに放置せず適切に処理する。
- 火災時は適切な保護具を着用し、水・消火剤等で消火に努める。
 保管…直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。



●使用の前にはラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●本剤は小児の手の届く所には置かない

13.2.3000(NU)

製造・販売



取扱い